The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	『主婦之友』にみる昭和初期の洋装子供服について
Author(s)	村田, 裕子
Citation	デザイン理論. 2011, 57, p. 150-151
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53401
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『主婦之友』にみる昭和初期の洋装子供服について

村田裕子／大阪大谷大学短期大学部

日本の近代化において，一般家庭への活動的な衣服の改良は明治後半から唱えられ，大正期には家庭生活の合理化や欧米化に向けた「生活改善運動」の一環として「服装改善運動」が行われ，衣服の洋装化が勧められた。当時の婦人雑誌には，読者である一般の主婦達が家庭でも洋服を制作できるように洋服の仕立方が掲載されている。そこには型紙や布地，洋裁道具，ミシン，服の販売もみられ，一般家庭での洋服作りや洋服の着用を広めようとしている。そこで，洋装化がはやく進んだ子供服について，国内が比較的平和だった昭和初期（昭和10年迄）を期間とし，実用的な家庭生活情報を中心として編集されていた雑誌『主婦之友』より検討する。対象とした資料は，通信販売のような役割をしていた「主婦之友代理部の重要取扱品案内」にて紹介，販売され，さらに記事や附録で仕立方が掲載された子供服である。

本発表では記事に従って型紙を作成し，シーチングの布で実物大に再現し（写真１～３），１／４縮尺で作図した型紙と裁断図を

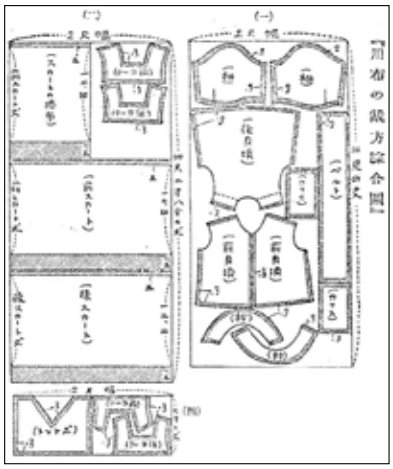

図１　記事に掲載された仕立方図
「新型の女児通学服一揃の作方」
11巻３号（昭和２年３月号）

図２　「主婦之友代理部の重要取扱品案内」にて販売
11巻４号（昭和２年４月号）

写真１　　写真２

写真１　ブラウス
写真２　ブラウスの上にジャンパースカート着用
「新型の女児通学服一揃の作方」（７・８歳用）再現
11巻３号（昭和２年３月号）

紹介した。

対象は昭和２年３月号に文化裁縫女学校長並木伊三郎によって，仕立方が掲載され４月号より販売された７，８歳用「新型女児通学服一揃の作方」（図１～２）と昭和８年５月号の別冊付録「夏の新型子供服の作り方」の中に掲載され６月号で販売された溝部洋裁女塾溝部百合子の４，５歳用「簡単な割出し法で夏向女児服の仕立方」（図３～５）の２件である。

記事や再現したことによりわかったことは，主婦之友では原型の紹介が大正15年に並木伊三郎によって行われたが，実際には仕立方に原型を使用している場合は少なく，決められた寸法で作図する囲み製図の記載が多い。これは洋裁についての知識が不足していた読者に原型を理解させることが難しく，簡単に出来る作図法をとったためと考えられる。昭和６年６月号からは附録に実物大の型紙がつくようになる。型紙作りを省くことによって，作図の苦手な人でも容易に洋服を製作することができるようになってきたと考えられる。代理部ではミシンや布，針や糸，ルレット，チャコなどの裁縫道具も販売されるようになり，洋服を作ることが多くなってきたことを窺わせる。そして，採寸の仕方や標準寸法の取り方，必要な基礎縫の説明や布の地伸しの仕方なども説明され，洋服作りに必要な知識や技術の説明がより詳しくされ，洋装化の普及がはかられている。

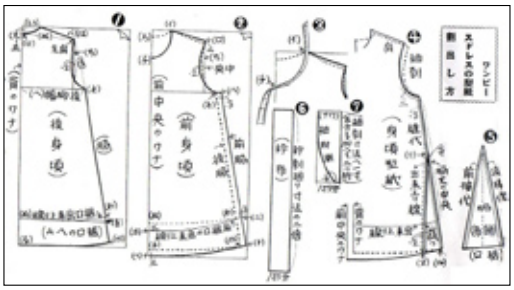

図３

図４

図３図４　記事に掲載された仕立方図
「簡単な割出し法で夏向女児服の仕立方」
（３・４歳用）17巻５号（昭和８年５月号）
別冊附録「夏の新型子供服の作り方」

図５　「主婦之友代理部案内」にて販売
17巻６号（昭和８年６月号）

写真３
「簡単な割出し法で夏向女児服の仕立方」
（３・４歳用）再現
17巻５号（昭和８年５月号）
別冊附録「夏の新型子供服の作り方」